

# 学生の考える保育実習の目標と達成度

榊原 尉津子<sup>1</sup>、杉山 佳菜子<sup>2</sup>、小川 真由子<sup>2</sup>

## 要旨

本研究は、保育実習Ⅱを実施する5日前の事前調査と10日間の実習終了後に事後調査を受講生34名に対し実施した。事前調査として、実習に行くにあたり不安に思っていること、今回の実習の目標と達成の自信度とした。事後調査では、不安に思っていたことが解消されたか、目標達成度、今後の自分の課題について調査し検討を行った。

研究の結果、事前調査からは学生は知識・技術力・指導力の不足以外に、職員や保護者との人間関係に関する不安があることが明らかとなった。しかし、実習を経験することで園児や保護者と関わり、職員の丁寧な指導を受け、そして何よりも保育経験を積めることが不安解消に繋がり、遣り甲斐のある職業であることを実感できる貴重な学びの場であることが分った。今後保育者養成校では、このような保育現場での実践的な学びの場を多く取り入れることで質の高い保育者を育成していかなければならないと考える。

## キーワード

保育実習, 実習目標, 達成度, 自己課題, 短大生

## 1. 問題と目的

平成30年4月、各保育園の保育の質を高める観点から約10年に一度改訂されてきた保育所保育指針の改訂があった。前回の平成20年の改訂から10年になるが、その間、保育園利用児童数の増加や子ども・子育て支援制度の施行、児童虐待対応件数の増加等<sup>1)</sup>、子どもを取り巻く社会情勢は大きく変化してきた。また同時期に幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も改訂となり、いずれも現在の子どもを取りまく環境と社会情勢の変化にあわせた内容となっている。さらに保育者養成校においては、より実践力のある保育士の養成に向けて指定保育士養成施設の修業教科目（保育士養成課程）及び保育士試験の筆記試験科目運営の基準が改正（平成31年4月1日より施行）となり、指定保育士養成施設の指定及び運営の基準についても一部改正となった。これらの改訂・改正を受け、保育者養成校においては、子どもを取りまく環境と社会情勢の変化や子どもとその保護者への支援ができる質の高い保育者を育成しなければならない時代となった。

この質の高い保育者を養成するため、学内の授業以外に保育園と児童福祉施設等への実

<sup>1</sup> 高田短期大学子ども学科

<sup>2</sup> こども教育学部こども教育学科

習体験が含まれている。この保育実習の目的と位置づけについては、平成15年12月9日付の厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知によると「保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」とされている。また長谷（2014）<sup>2)</sup>によると、「保育実習は保育の現場を借りて養成校が現場の保育者に教育を委託する形で行われ、学生が保育の実際を体験的に学ぶ機会であると位置づけられている。保育所保育指針において保育士は、保育の専門家として位置づけられていることからみても、保育者としての専門性を担保するためには保育実習つまり、保育の現場において実際の保育の様子を見て聞いて、そして例え部分的であるとしても自らが実際に乳幼児を保育することによって、子どもの理解と保育者の職務について理解を深め、実際の保育に対する認識を深めることは保育者を目指す学生にとっては、とても有意義であり、かつ必要不可欠な経験である。」と述べている。このことは、本学においても実習指導担当者から実習前に実施される事前指導の際に、①実習の目的 ②実習に臨む姿勢 ③実習までの注意事項 ④実習中の注意事項 ⑤実習終了後の注意事項等説明を受け、保育園で何を学び、何を身に付けるのかを再確認させたうえで実習先に送り出している。筆者らにおいては、実習指導科目以外に保育士資格に関連する科目担当者として、共同研究や教育・保育実習関連テキストを作成することで、さらに深く丁寧に保育力・指導力・援助力を身につけさせることができる。より質の高い保育者を育成するためには科目間の連携を図ることも重要であると考ええる。

また、榊原・小川・杉山（2018）が実施した保育実習終了後の振り返りアンケート調査からは、学生は知識や保育経験の乏しさから育児相談や教育方針が違う保護者への対応の難しさ、他者との対話不足から起こる職員との連携・協力の難しさを感じていることが明らかとなった。保護者との対応で困ったことについては、75%の学生が「保護者と関わっていない」「特になし」と回答した<sup>3)</sup>。この結果からも分かるように挨拶をきっかけとして、保護者と関わることをできる唯一のチャンスを逃してしまったのである。短大生は、2年間で保育実習（保育所）2回、教育実習（幼稚園）2回、児童福祉施設1回を経験するが、それぞれの実習の目的をしっかりと理解したうえで実習に挑まなければ資質能力向上に繋がる学びは無いと言える。

そこで、これまでのように榊原・小川・杉山（2018）が実施した実習の振り返りアンケート調査結果から教授内容の検討、授業改善に役立たせるだけではなく、さらに質の高い保育者養成を目指し、実習前の学生の意識調査を実施することで、その結果を基に余裕を持って実習に取り組めるよう実習前指導に必要な指導・援助の内容と方法を探ることを目的とし調査・検討を行う。

## 2. 方法

### (1) 調査協力者

短期大学部2年生34名（男2名、女子32名）。調査協力の学生は、既に1年次に保育実習Ⅰ（保育所・施設）と教育実習Ⅰ（幼稚園）の3回の実習を経験している。

### (2) 調査時期

事前調査：2018年6月（保育実習Ⅱ実施の5日前に調査）、事後調査：2018年7月。

### (3) 質問項目

**事前調査：**実習に行くにあたって不安に思っていることはありますか（自由記述）。今回の実習の目標（具体的に3つ記入）とその目標に対する達成の自信は何%くらいありますか。

**事後調査：**実習に行く前に不安に思っていたことは実習をしてみて解消されましたか（4択、記述）。今回の実習前に立てた目標（事前アンケートに記入した目標）は何%達成できましたか。今回の実習を経験して、自分の課題（具体的に3つ記入）は何だと思いましたか。以上の質問について、回答を求めた。

## 3. 結果および考察

### 3.1 実習前の不安

5回目となる実習に行くにあたって不安に思っていることについては、表1のとおりである。学生の記述を7つのカテゴリーに分けると①部分実習、責任実習に関すること（9名）、②子どもや職員との関係に関すること（7名）、③日誌に関すること（6名）、④健康面、精神面に関すること（4名）、⑤ピアノに関すること（2名）、⑥不安がない（1名）、⑦記入なし（5名）になるが、34名中28名（約82%）の学生は何らかの不安な気持ちを持って実習に参加していることが分った。特に、部分・責任実習、子どもや職員との人間関係、日誌の記入に関する内容の記述が多く見られた。実際、実習前になると個々に日誌の書き方や部分・責任実習で実施する保育内容について質問や指導を求めてくる学生がいたり、手遊び・歌遊び・運動遊び、絵本、壁面、保育教材等、年齢別に何をどのように準備すれば良いのか全く分らず、救いを求め研究室を尋ねて来る学生もいる。このような学生は、短大生活最後の実習ということで実習先の指導は非常に厳しいものになると覚悟をしているようだ。教員側も学生のそのような気持ちに寄り添い、それぞれの学生の個性を活かした保育が展開できるよう指導・助言することで、学生の不安解消に繋がるのではないかと考える。

表1 実習に行くにあたって不安に思っていること

○部分実習・責任実習に関すること（9名）

- ・責任実習・部分実習の日・指導案の書き方。部分実習（年齢に合った）活動の内容。
- ・初めて責任実習があるので、子どもが楽しんでもくれるかや安全にできるかが心配です。
- ・初めての一日責任実習がどのようにできるかが不安。保育園の先生方と上手に関わることができるか不安。
- ・責任実習が怖い。何をするかわからない。日誌。先生が怖い人やったらどないしよう。
- ・部分実習 責任実習 ピアノ 1日しかお休みがないこと 先生との関わり。
- ・部分実習・責任実習をどのようにしきっていけば不安。
- ・部分実習・日誌。
- ・部分実習で先生役がしっかりできるか。
- ・初めての部分実習と責任実習があるので、緊張して上手くできなかったらどうしようと不安に思う。一年生の時の実習で積極性に欠けていると注意を受けたので改善できるかも不安です。

○子どもや職員との関係に関すること（7名）

- ・行く園の先生方とうまく関われるかどうか。
- ・職員の人が怖いかもかもしれないから不安。日誌がきちんと書けるか不安。部分（責任）実習をやり遂げられるか不安。体力がもつか不安。2週間もつか不安。
- ・先生達・子ども達とうまくやっていけるか不安。接し方。
- ・先生との接し方。
- ・担任の先生などと良い関係を築くことができるかです。
- ・実習に行く保育園がこども園なので、人数が多く、一人ひとりに関われないこと。縦割り保育が初めてなので、どんなものなのかが想像できない。
- ・初めての乳児クラスでの実習なので、どのように関わればいいのか少し不安です。

○日誌に関すること（6名）

- ・指導案の書き方。ピアノでつまらないか、部分実習を最後までこなせるか。
- ・日誌、指導案。
- ・日誌が最終日まで帰ってこなかったし、直しも漢字などだったりしたので、本当に書けているか心配です。
- ・日誌がしっかり描けるのか、体調を崩さないか、部分実習はできるのか。
- ・日誌をしっかり書けるか。部分実習を予定通り行えるか。
- ・実習日誌を書けるかどうか。

○健康面、精神面に関すること（4名）

- ・病んだらどうしようと思います。 ・とても憂鬱。 ・不安に思っていること。
- ・遅番のとか早番とか聞かれたのですが、何も考えてなかったのが、困惑しました。遅番や早番があった際の日誌を書く時間があるか不安です。あとピアノ。

○ピアノに関すること（2名）

- ・ピアノ。子ども一人ひとりの事をしっかり見る余裕があるかどうか。
- ・ピアノやその突然の場面でどのように対応すればいいのか不安です。

○不安がない（1名）

○記入なし（5名）

### 3.2 実習目標に対する自信と達成度

10日間の実習では子どもや保護者、先輩保育士との関わりから、保育所の役割について考え、保育の知識・技能を身につけるとともに、保育経験を重ねるなどの保育の質の向上に繋がる学びを経験することができる。しかし、事前指導では実習担当者から実習の目的について教授されるが、実際に学生達がどのような目標を持って実習に臨んでいるかを把握するために記述式で回答を求めた。学生には実習前調査として3つの目標と目標達成の

自信度、実習終了後には実習前に挙げた目標がどれだけ達成できたか、それぞれの目標に対する達成度について調査を行った。学生個人の目標と自信・達成度は表2（網掛け箇所：実習後の調査日に欠席をした学生と記入漏れがある学生については無効とした。）のとおりであった。また、学生が挙げた実習目標①～③をまとめると表3のとおりであった。

表2 学生個人の实習目標に対する自信と達成度

自信・達成度（％）

学 生	実 習 目 標①	目 標 ① 達 成 の 自 信 度	目 標 ① の 達 成 度	実 習 の 目 標②	目 標 ② 達 成 の 自 信 度	目 標 ② の 達 成 度	実 習 の 目 標③	目 標 ③ 達 成 の 自 信 度	目 標 ③ の 達 成 度	目 標 達 成 自 信 の 平 均	目 標 達 成 度 の 平 均	自 信 度 と 達 成 度 の 比 較
A	保育者と子どもとの関わりについてみるこ と。	50	45	保育者同士の連携についてみるこ と。	40	40	保育者と保護者とのか かわりについてみるこ と。	40	10	43	36	↘ 7
B	ミルク作り、おむつ替えなどの技術 面の体験。	80	90	先生たちと保護者の様 子。	50	80	安全面への配慮の仕 方。	70	80	67	83	↗ 16
C	子どもの気持ちに気が付 き応えるこ と。	73	84	子どもの前に立つことへ の自信をつ ける。	68	89	遊びの提供 をする。	77	42	73	72	↘ 1
D	子どもたちに対する保育 者の関わり。	50	40	体調管理に 気をつける。	50	80	自分にできることを精一 杯する。	50	80	50	67	↗ 17
E												
F	各年齢のか かわり方の 違いを学 ぶ。	100	80	なるべく自分 から積極的 に行動する。	30	75	1人1人の子 どもによつて 配慮の仕方 を考える。	80	90	70	82	↗ 12
G	活動と活動 の間導入を うまくつな げられるか。	70	60	ピアノを間違 えても続け て弾くこと ができるか。	60	70	先生と積極 的に会話し、子どもの 事を理解す る。	80	90	70	73	↗ 3
H	子どもの動き や、気持ちを 受け止めら れる。	60	100	職員さんとの 連携を見る。	80	60	挨拶や礼儀 作法をしつ かりと心得 る。	100	90	80	83	↗ 3
I	1～5歳をど のように保育 しているの か。	30	80	1日の流れ。	50	75	部分や責任 実習をして 自分はきち んとできる のかを試す。	10	70	30	75	↗ 45
J	子どもたちへ の声かけ。	50	70	子ども達をど のようにま とめればい いか。	50	60	日誌の書き 方。	50	70	50	67	↗ 17
K	2歳児はどん なことができる のかを学 ぶ。	80	60	責任実習を して、自分の 課題を知る。	80	60	背局的に子 どもや保育 士と関わる。	80	60	80	60	↘ 20
L	積極的な行 動を心がけ る。	70	80	子どもの目 線に立って 考える。	70	70	実習生とし ての立場を 考える。服 装、身だし なみなど	70	90	70	73	↗ 3

表2の続き

自信・達成度(%)

学生	実習の 目標①	目標 ①達成 の自信 度	目標 ①の 達成 度	実習の 目標②	目標 ②達成 の自信 度	目標 ②の 達成 度	実習の 目標③	目標 ③達成 の自信 度	目標 ③の 達成 度	目標 達成 自信の 平均	目標 達成 度の 平均	自信 度と 達成 度の 比較
M	言葉をかける際 の環境も考える。	50	95	積極的に歩み寄る。	50	95	子どもの年齢別の発達段階を観察する。	50	50	50	80	↗ 30
N	積極的に出し物をする。	90	80	子どものトラブルの対応を学ぶ。	70	80	日誌で注意されたことを改善する。	98	80	86	80	↘ 6
O	積極的に行動する。	50	60	部分実習を最後までやり遂げる。	40		体調を崩さない。	70	70			
P	幼児と乳児の発達の違い。	80	80	保育者の乳児に対する援助の仕方。	80	80	積極的に動く。	80	80	80	80	→ 0
Q			80			90			70			
R	子ども達のまとめ方。	50		各年齢の関わり。	50		手遊び、ピアノでの子どもの関わり。	50				
S	各年齢の保育内容の理解。	70	90	3～5歳児の保育園でのかかわり方。	91	95	発達に合わせた活動や援助をする力を身につける。	83	100	81	95	↗ 14
T	部分実習を成功させる。	50	40	乳児との関りを学びたい。	70	70	乳児の1日の生活の流れを学びたい。	70	80	63	63	→ 0
U	縦割り保育での子ども達の関りを知る。	80	70	なるべく多くの子ども達と関わる。	70	70	子どもの前で、笑顔で楽しい雰囲気をつくる。	85	65	78	68	↘ 10
V	一人ひとりの子どもと深くかかわる。		90	ケンカなどの仲裁の仕方などを学ぶ。		80	わからないことなど、疑問に思ったことは積極的に聞く。		60			
W	厳しい指導をされても素直に聞き、受け止めるようにする。	30	99	笑顔を忘れないようにする。	50	99	どんどん挑戦する力を身につけるようにする。	30	60	37	86	↗ 49
X												
Y	部分実習で子どもをまとめられるよう先生役をしっかりとやる。	60	60	5歳児は初めて入るので、発達やできることを見る。	75	70	子ども積極的に話しかけ、思いを共有したり、会話をする。	70	60	68	63	↘ 5
Z	前よりしっかり日誌を書くことで赤を減らす。	70	70	こども一人ひとりをしっかりとらえ、保育する。	80	60	子どもについての情報共有をしっかりとする。	20	90	57	73	↗ 16
a												
b	保育者の方との関わり方。	50	80	子ども一人ひとりを理解して接すること。	80	100	保育者同士の関わりや連絡事項の伝達などの仕方を観察すること。	80	50	70	77	↗ 7

表2の続き

自信・達成度(%)

学生	実習の目標 ①	目標 ①の達成 の自信度	目標 ①の達成 度	実習の目標 ②	目標 ②の達成 の自信度	目標 ②の達成 度	実習の目標 ③	目標 ③の達成 の自信度	目標 ③の達成 度	目標 達成 自信度 の平均	目標 達成 度の平均	自信 度と 達成 度の 比較
c												
d	苦手克服	40	50	楽しむ	40	100	日誌	40	60	40	70	↗ 30
e	子ども達の年齢に対しての対応を学びます。(発達状態)	80	50	先生方が子ども達にどういう気持ちで関わっているのかを学ぶに行く。	80	77	日誌の書き方、言葉遣いを学びます。	100	80	87	69	↘ 18
f	毎日元気である。ー笑う。ポジティブ。	50		病気をしない。ー手洗いうがい・よく寝る。	80	7	最後までやりきる。ー根性	80				
g	挨拶をしつかりする。	80	80	部分実習をしつかり行えるように準備しておく。	80	75	年齢に合った発達を観察する。	80	70	80	75	↘ 15
h	これまでの経験を生かしていくこと。	80		子ども達に対する理解を深める。	50		自分を出して、元気になること。	50				

表3 実習目標①～③のまとめ

・各年齢（異年齢保育含む）の子どもとの関わり方・声の掛け方を学ぶ	24人	71%
・積極的な行動を心掛ける	9人	26%
・部分実習、責任実習の成功や体験をとおして課題を見つける	7人	24%
・各年齢の保育理解と観察をする	6人	18%
・日誌の書き方を学ぶ	5人	15%
・職員や保護者との関わり方を学ぶ	5人	15%
・挨拶や礼儀作法に気を付ける	3人	9%
・笑顔で関わる	2人	6%
・保育の一日の流れを学ぶ	2人	6%
・その他	9人	26%

表2のとおり記述をみると、学生が真っ先に考えた目標は、目標①に挙げた年齢別保育とその関わり方、積極的に取り組む、部分実習の成功という記述が多くみられ、卒業後に多くの学生が就く保育職に活かすための目標であることが推測される。

次に個々の学生の実習前の自信度と実習後の目標達成度との差をみるため、目標を達成したという自己評価をした学生についてはその差を↑印とパーセンテージで示し、また達成することができなかった学生については↘印とパーセンテージで、自信と達成度が同じであった学生については→印とパーセンテージで表し比較を行った。その結果、自信よりも達成度を高く評価した学生は有効回答数22名中、14名（64%）という結果であった。低く評価した学生は8名（36%）であった。

また、実習の目標①～③の中で多くみられた内容は、表3に示したように「各年齢（異年齢保育含む）の子どもとの関わり方・声の掛け方を学びたい」と考えている学生は24人（71%）と一番多く、次に「積極的な行動を心掛ける」9人（26%）であり、その次に「部分実習、責任実習の成功や体験をととして課題を見つける」が7人（24%）であった。

このように学生の記述からは、資格取得のためだけに10日間の実習に行くのではなく、大学での授業では経験できない貴重な経験から自己の目標や課題を見つけ、今後の保育活動に活かしたいと考える学生が多いということが分った。

### 3.3 実習後の不安解消について

実習前に調査した「実習前の不安」に関する調査を、再度実習後に実習の振り返りと併せて実施した。「実習に行く前に不安に思っていたことは実習を経験して解消されたか。」の質問に対する回答は図1のとおりであった。「解消された」と回答した学生は64%であり、「解消されなかった」と回答した学生は15%で

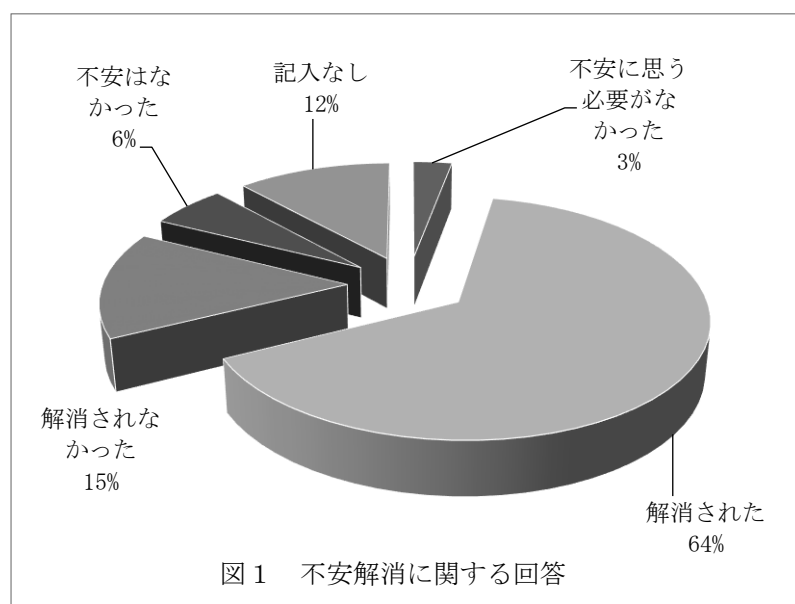


図1 不安解消に関する回答

あった。また「不安がなかった」と「不安に思う必要がなかった」と回答した学生が9%あり、実習期間中に職員からの丁寧な指導や支えがあったからこそ、実習を乗り切ることができ不安解消に繋がったと推測される。

さらに不安解消に繋がった理由については、「職員による指導や支えが理由とする内容」「経験が理由とする内容」「その他」の3つに分け、学生の記述を次の表4にまとめた。

「職員による指導や支えが理由」という内容の記述をした学生は12名であり、優しくや丁寧といった言葉が多くみられた。次に「経験が理由」という内容の記述をした学生は4名であった。教員や先輩といった周囲の話だけで勝手に想像していた厳しい現場と実際に行き子どもや職員と触れ合うことで不安解消に繋がったと推測される内容がみられた。



表4 不安が解消された理由

○職員による指導や支えが理由とする内容（12名）
・職員さんがやさしく教えてくれたり、アドバイスをしてくれたりしてくれたから。
・先生方がたくさんのことを丁寧に教えてくれたから。
・先生方がとてもよい人ばかりだった。やさしく教えてくれました。
・先生方が優しく教えてくれたので不安は消えた。
・先生方と気軽に話せたから。
・先生たちが優しく教えてくれたので心折れずに頑張ることができた。
・保育士さんたちがたくさん協力してくれたから。
・積極的に保育士と会話した。
・保育士さんにたくさん支えてもらったから。子どもたちにたくさん関ることができたから。
・質問する場が十分にあった。周りの人に恵まれていた。
・日誌をほめてもらったから。よりよくなるようにアドバイスをもらったから。
・日誌を毎日3枚書き、たくさん直していただき、書き方を学んだ。
○経験が理由とする内容（4名）
・経験したことのないことを経験したから。
・実際に言ってみたら自然と関ることができた。
・実習園が「実習生さんに充実した10日間を」と部分実習をさせてくれた。気持ちよく実習ができた。園のおかげです。
・少しは書けるようになったから。
○その他（5名）
・ピアノがなかった。
・楽しく実習ができました。
・責任実習がうまくいかなかった。
・実習を終えることができなかった。
・他の保育者とのコミュニケーションを上手く取れていたかわからん。その場ではよくても、実習後にどんな陰口を言われているか・・・と思うと怖くて不信。
○記入なし（13名）

### 3.4 学生自身の課題について

学生はこれまでに、保育実習Ⅰ（保育所、施設）、教育実習Ⅰを経験し、今回で4回目となる保育実習を経験したことになる。それぞれの実習で園側の評価票、日誌・指導案へのコメントにより反省と課題をみつけてきたと推測するが、今回すべての実習を終えた時点で改めて「自分の課題（具体的に3つ記入）は何だと思うか。」について記述を求めた。その結果は、表5（実習後の自分の課題①～③）のとおりである。課題として挙げた内容は、保育者や保護者とコミュニケーションが取れるようになること、音楽・造形・体育に関する保育内容のレパートリーを増やすこと、技術力を身につけること、指導力として年齢に応じた声の掛け方と関わり方、発達の理解、健康管理に関すること等の記述がみられた。実習終了後から卒業まで約半年、学生が自分自身の成長のために自分は何をすべきか、何を身につければよいか、自分にできることは何か、といった課題を見つけることが重要であり、今後さらに専門的知識と技術、コミュニケーション力をしっかりと身につけ、保育現場で活躍をしてもらいたいと考えている。

表5 実習後の自分の課題①～③

自分の課題①
<p>○他者との関わり方（コミュニケーション力）に関すること（11名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション力</li> <li>・もっと保育者と保護者とのかかわりを見ること</li> <li>・人間不信を治す（コミュ障の軽減）</li> <li>・活動をする時になかなか動かない子に対しての言葉かけ</li> <li>・保育者ともっとコミュニケーションをとる。</li> <li>・保護者との会話、話す力、情報の相互確認</li> <li>・もっと今以上に積極的に関る</li> <li>・子どもに伝えるときの内容と環境</li> <li>・子どもたちへの声かけ</li> </ul> <p>○技術力、日誌・指導案に関すること（7名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように制作をしたらよいか</li> <li>・ピアノを練習する、事前準備</li> <li>・指導案、日誌の書き方</li> <li>・実習日誌は見たまま聞いたまま書けば、内容に苦しむことはない</li> <li>・手遊びの種類を豊富にする</li> </ul> <p>○指導力、発達の理解に関すること（4名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人数をまとめられる力</li> <li>・年齢の配慮を理解する</li> <li>・どのように子どもの発達をみる必要があると思います</li> <li>・積極的に物事を行う</li> </ul> <p>○健康・精神面に関すること（4名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めげない心</li> <li>・体調管理（メンタル）をしっかりする</li> <li>・落ち着いて取り組む（部分実習など）</li> </ul> <p>○記入無し（8名）</p>
自分の課題②
<p>○他者との関わり方（コミュニケーション力）に関すること（12名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力</li> <li>・先生たちとのコミュニケーション</li> <li>・保護者の人ともコミュニケーションをとる</li> <li>・仲良くなるための笑顔</li> </ul> <p>○技術力、日誌・指導案に関すること（9名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽以外の特技を活かす</li> <li>・ピアノを弾くこと</li> <li>・絵画スキルをUPさせる（制作、壁面）</li> <li>・手遊びや歌のスキル、もっと楽しくできること</li> <li>・指導案を詳しく書けるようにする</li> <li>・先生への質問の仕方・日誌の書き方</li> <li>・弾き歌いができるようにする</li> </ul> <p>○指導力、発達の理解に関すること（8名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちそれぞれのことをたくさん知る、月齢の理解</li> <li>・指導案の想定外に対する対策</li> <li>・時間に余裕を持つ</li> <li>・トラブル時の言葉かけ</li> <li>・声の大きさ</li> <li>・シミュレーションをどれだけ具体的にするか</li> <li>・想定できることはすべて想定し、対応についても考え責任実習等を行う。</li> <li>・判断力</li> </ul> <p>○記入無し（5名）</p>

自分の課題③
<p>○他者との関わり方（コミュニケーション力）に関すること（4名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員と仲良くなる</li> <li>・担任や保護者とかかわり</li> <li>・表情筋を動かす練習</li> <li>・もっと明るく接する</li> </ul> <p>○技術力、日誌・指導案に関すること（8名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノの練習</li> <li>・運動遊びを提供できるようになる</li> <li>・計画案をしっかりと書く</li> <li>・日誌の書き方・意識、細かく丁寧に書く</li> <li>・手遊びの導入のレパートリーを増やす</li> </ul> <p>○指導力、発達の理解に関すること（15名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どれだけ周りをよくみれるか、子どもたちとかかわりに偏らない</li> <li>・なぜ保育者がこのような関りをするのか</li> <li>・障がい児に対する対応</li> <li>・年齢にあった声かけの種類</li> <li>・まとめ方</li> <li>・もっと楽しんで保育する</li> <li>・ケガや体調不良の時にできることをする</li> <li>・観察力</li> </ul> <p>○健康に関すること（3名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な日々、体調管理を整える</li> </ul> <p>○記入無し（4名）</p>

#### 4. まとめと今後の課題

本研究は、保育実習Ⅱを実施する5日前の事前調査と10日間の実習終了後に実施した事後調査を受講生34名に対し実施した。事前調査では、実習に行くにあたり不安に思っていること、今回の実習の目標と達成の自信度について調査した。事後調査では、不安に思っていたことが解消されたか、目標達成度、今後の自分の課題等についての調査・検討を行った。その結果、事前調査からは学生は知識・技術力・指導力の不足以外に、職員や保護者との人間関係に不安があることが明らかとなった。また実習に参加するということは、園児や保護者と関わり、職員の丁寧な指導を受け、そして何よりも保育経験を積めることが不安解消に繋がり、遣り甲斐のある職業であることを実感できる貴重な学びの場であることが分った。ただ学生の中には、10日間の実習で不安が解消されなかった者や自信の目標が達成されなかったという事実も明らかとなった。これらについては、なぜ解消されなかったのか、なぜ達成できなかったかを共同研究者らとの科目間の連携を密にし、免許・資格に関係する教授内容の改善や学生へのサポート、さらに卒業後の進路を含めた学生一人ひとりに対する丁寧な指導・援助に繋げていきたいと考えている。

今回の調査・分析から、保育現場での貴重な体験は、保育者の役割を理解することができ、子どもや保護者を取りまく子育て環境の変化や問題について再確認できる学びの場であるということを学生に伝えていく必要があると痛感した。また、保育現場での実践的な学びの場を多く経験することで、質の高い保育者を育成できる絶好の機会でもあると言え

る。今後保育者養成校では、このような保育現場での実践的な学びの場を多く取り入れることで質の高い保育者を育成していく必要があり、2年間という短い短大生活の中で実習以外にも保育職への憧れと遣り甲斐を感じることができる場の提供を検討し、保育職の魅力を学生に伝えていきたいと考えている。

## 引用文献

- 1) 全国保育士養成セミナー行政説明資料（2018）：厚生労働省子ども家庭局保育課, 18.
- 2) 長谷秀揮（2014）：保育実習Ⅱにおける学生の学びについての一考察, 四條畷学園短期大学紀要, 47, 59.
- 3) 榊原尉津子・小川真由子・杉山佳菜子（2018）：保育実習の振り返りと自己評価（2）—現場で求められる保育者の資質能力向上を考える—, 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科学・社会科学編, 1, 171-173.

高田短期大学子ども学科 sakakibara@takada-jc.ac.jp

# A Childcare Training Aim and Achievement Degree of the Student

Itsuko SAKAKIBARA, Kanako SUGIYAMA, Mayuko OGAWA

## Abstract

In this study, I was worried about the preliminary survey to participate in nursing practical trainingⅡ, I studied the confidence of goal and achievement of practical training. In the ex-post survey, we investigated whether things that were concerned about anxiety were resolved, the achievement level of goal, and my future tasks.

As a result, I found that there is anxiety about the lack of knowledge, technical ability, leadership and human relations. However, it turned out that experiencing childcare experience by experiencing practical training can realize that it is an occupation having a sense of anxiety leading to anxiety disappearance. I think that we need to train quality teachers by incorporating many practical learning places at such childcare sites.

## Keyword

Childcare training, practical objective, achievement degree, self-task, junior college students

